

佐野市天然記念物 トウキョウ サンショウウオ

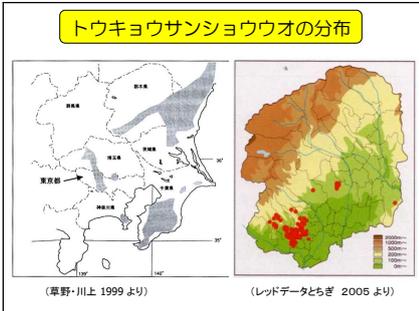


↑産卵の様子：団子状になっている

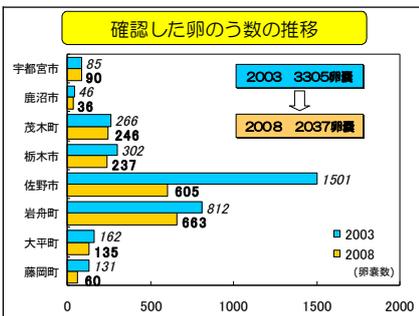
1988年（昭和63年）、佐野市奈良淵町のため池に産卵するトウキョウサンショウウオが、**佐野市の天然記念物**に指定された（佐野市文化財保護条例による。写真が指定地）。その先見性は高く、宇都宮市が昨年（2008年）、市の天然記念物に指定するまで、20年の月日が流れている。

トウキョウサンショウウオは、関東6都県（群馬県を除く）と福島県にのみ生息しており、各都県のRDB（レッドデータブック：保護上注目すべき生物等のリスト）の上位に位置づけられている。

栃木県では、**絶滅危惧II類（Bランク**：絶滅の危機が増大している生物）に指定され、県中央部（宇都宮市）、県東部（茂木町）、県南部の3地域で生息が確認されている。その中でも、県南部は県全体の生息数の約9割を占め、その**最大の生息地**となっているのが佐野市なのである（左図参照）。つまり、佐野市での今後の保護の成否が、本県のトウキョウサンショウウオの命運を握っていると言っても過言ではないのだ。



ところで、トウキョウサンショウウオは、県内にどのくらい生息しているのだろうか。それは、産卵期に**卵のう**の数を数えることである程度推測できる。1個体のメスから2個（1ペア）の卵のうが生み出されるので、**卵のう数÷2**が産卵メスのおおよその個体数となる。2003年に筆者らが行った調査では、卵のう数は全県で**3305**を数えたが、5年後の2008年では**2037**と激減しており、**佐野市で半数以下**となっていることの影響が大きい（左のグラフ参照）。



今できることは何なのか。例えば、宇都宮では、市とボランティア団体が保護に向けて様々な活動を行っており、県東部の茂木町では、地元の茂木高校生物部及びボランティアグループが1959年から保護・観察活動を行ってきた。佐野市では、早くから天然記念物に指定されてきたが、その産卵地は周囲の環境の悪化から**絶滅寸前**と言われている。

しかし、今年から佐野市の環境政策課が本種の保護に向けて動き出すようであり、**産卵環境の整備やプランニング**など**佐高生が貢献**できることは、かなりあると思っている。



←産卵直後の卵のうはしわしわで青い蛍光を発する。水を吸って膨らむ

